

【講義と演習④】個を支える地域づくり

日本福祉大学 原田 正樹

豊中市社会福祉協議会 勝部 麗子

個を支える地域づくり

ソーシャルサポートネットワーク

個人を支える地域のネットワーク
(地域住民＋専門職)

<前半>

ネットワークをつくるプロセス

<後半>

予防と新しい支援の仕組み

【ケースの概略】

ゴミ屋敷状態の家があるとして近隣住民から苦情を受け、自立相談支援機関の相談支援員が訪問した。

なかなか本人に会うことができず、定期的に訪問しながら、近隣からも本人についての情報を得ることができた。

外に働きに出ているようで数日留守にすることも多い。

家賃の滞納などはないため、大家も片付けるよう強く伝えることができずにいる。

◆現在わかっていること

【本人】

- ・女性
- ・年齢不詳
- ・一人暮らし
- ・猫を飼っている
- ・外に働きに出ている様子

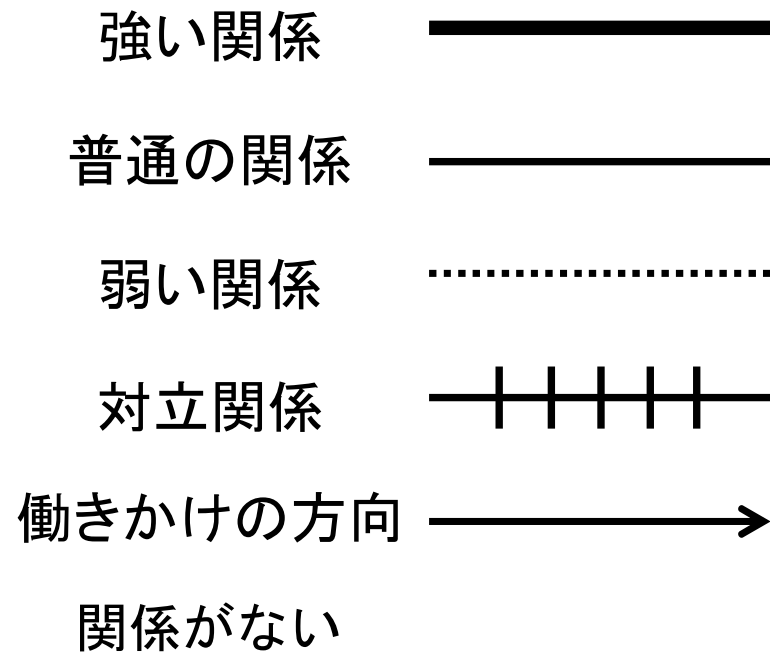
【周囲】

- ・向かいの住人A: 困っている
- ・隣の住人B: 怒っている「行政がゴミを片付けるべき」
- ・斜め前の住人C: 協力的(猫の話題などで唯一、会話あり。
ボランティア活動をしている)
- ・大家: 家賃の支払い時に会う程度
- ・民生委員: ときどき様子を見にきているが、会えていない

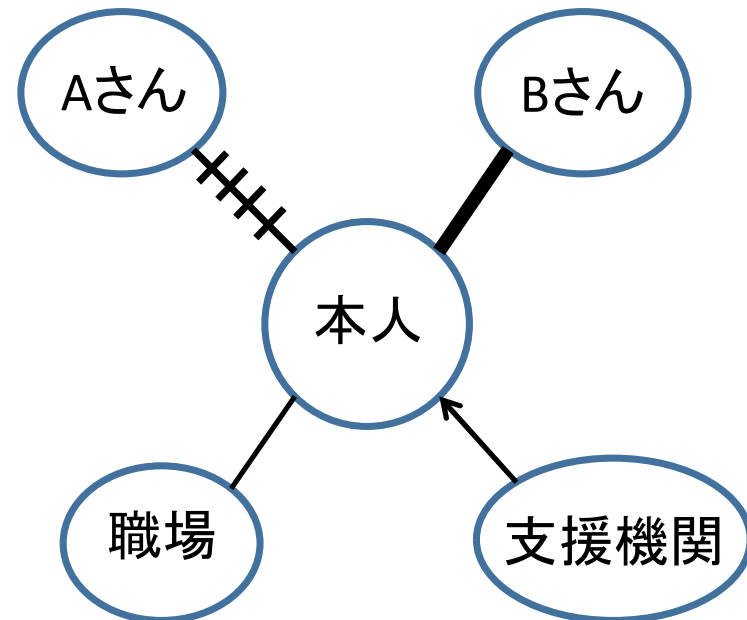
■ 個人ワーク エコマップの作成について解説

中心に本人を置き、その周りに関係性のある人物や機関を配置して、関係性を線でつなぎます。

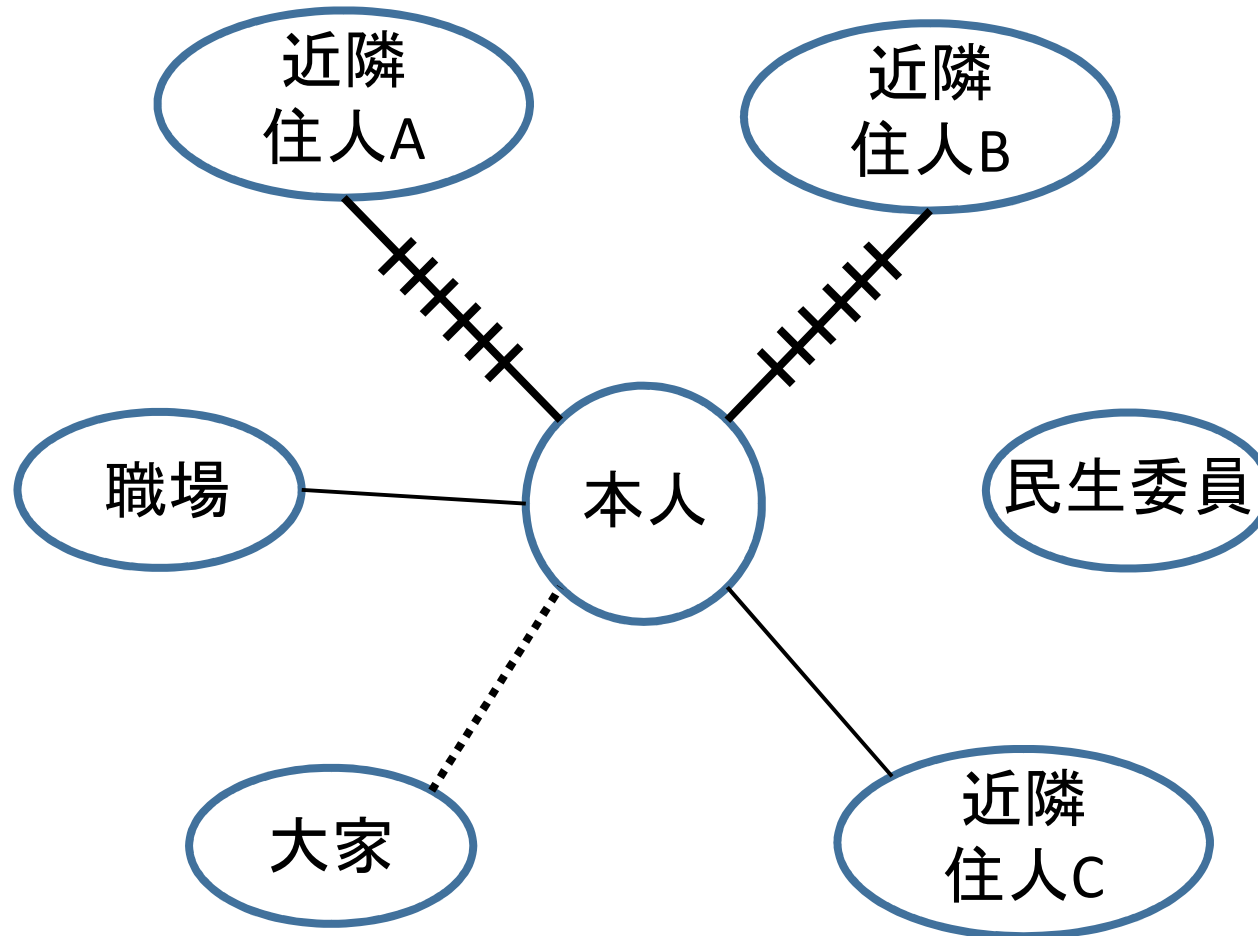
【関係性の線】



【エコマップの例】

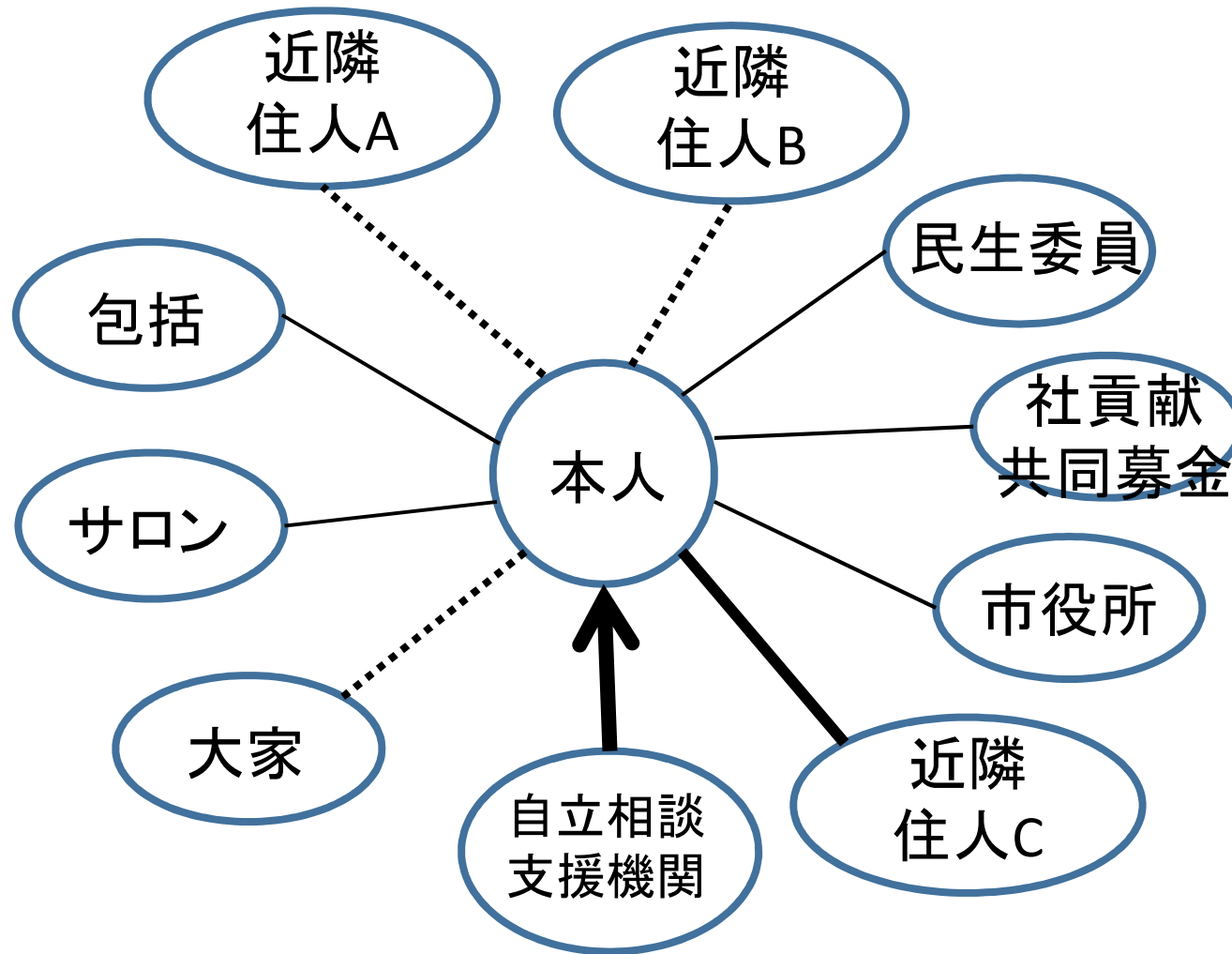


【講義と演習④】個を支える地域づくり（前半）



エコマップ① 最初に訪問する前

【講義と演習④】個を支える地域づくり（前半）



エコマップ② 会ってから現在

プロセスレポートシート

本人のニーズ・状況	主任相談支援員の働きかけ	地域・近隣住民
<p>訪問しても不在で連絡がとれない。</p> <p>↓(8ヶ月後)</p> <p>本人と出会う。「できればゴミを片付けたい」と話す。</p> <p>↓(1ヵ月後)</p> <p>・ゴミの片付けが始まる</p> <p>↓(1年後)</p> <p>・「生活が苦しい」と語り出す。 ↔</p> <p>・サロンに参加するようになる。スーパーのフードコートで食事を振る舞う。 ↔</p>	<p>主任相談支援員の働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民からの苦情で訪問するが、会えない ・月1回定期的に訪問。包括支援センターなどとも情報共有をする。 ・近隣の人から声をかけられるようになる。近隣の人たちの意見や困っている内容についても聞き取りをする。 ・近隣に対して本人の姿を見かけたら連絡してほしいと依頼 ・近隣に対して「本人と話し合いたいので協力してください」とお願いする <p>↓本人と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「片付けの時に来てください」と斜め前の住人に依頼 ・包括と行政へ働きかけ。片付け依頼。ゴミの片付け費用(たすけあい基金)調整。 ・支援員の働く姿。ゴミを片付ける姿。 ← ・「周りの人は優しくしてくれているね」と本人に印象付けるように伝える。→代弁機能。橋渡し役。→攻撃する人の思いにも配慮。 <p>↓(1年後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活保護申請に同行 ・「元気はないけど貯金はある」と話す。しかし近い将来、困窮状態になると思われる。 ・ゆるやかな見守り体制づくり。近隣やサロンへの働きかけ。 <p>・ゴミ屋敷と地域のニーズの両方に目を向ける。 →社会的孤立をさせない支援へ。</p>	<p>地域・近隣住民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民からゴミを片付けてほしいとの依頼 ・向かいの住人A: 困っている ・隣の住人B: 怒っている「行政がゴミを片付けるべき」 ・斜め前の住人C: 協力的(唯一、会話あり。ボランティア活動をしている) <p>・ゴミの片付けに協力するようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の人たちも気にかけてくれるようになる。 ・見守りをしてくれるネットワークをつくる。 ・サロン活動

ケースの概略

ゴミ屋敷状態の家があるとして近隣住民から苦情を受け、自立相談支援機関の相談支援員が訪問した。なかなか本人に会うことができず、定期的に訪問しながら、近隣からも本人についての情報を得ることができた。外に働きに出ているようで数日留守にすることも多い。家賃の滞納などはないため、大家も片付けるよう強く伝えることができずにいる。

◆現在わかっていること

【本人】

- ・女性
- ・年齢不詳
- ・一人暮らし
- ・猫を飼っている
- ・外に働きに出ている様子

【周囲】

- ・向かいの住人 A：困っている
- ・隣の住人 B：怒っている「行政がゴミを片付けるべき」
- ・斜め前の住人 C：協力的（猫の話題などで唯一、会話あり。ボランティア活動をしている）
- ・大家：家賃の支払い時に会う程度
- ・民生委員：ときどき様子を見にきているが、会えていない

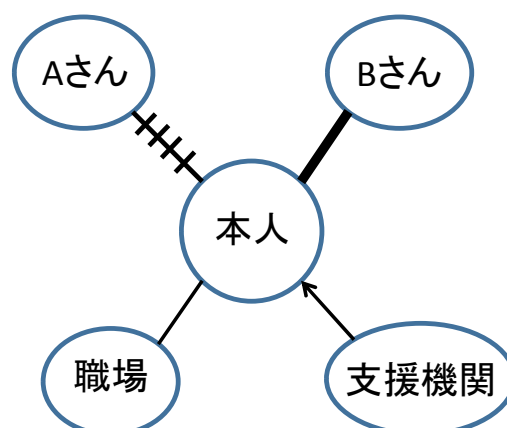
■個人ワーク エコマップの作成について解説

中心に本人を置き、その周りに関係性のある人物や機関を配置して、関係性を線でつなぎます。

【関係性の線】

強い関係	—————
普通の関係	—————
弱い関係
対立関係	+++++
働きかけの方向	—————>

【エコマップの例】



次のページにエコマップ作成シートがございます。

【講義と演習④】個を支える地域づくり（前半）

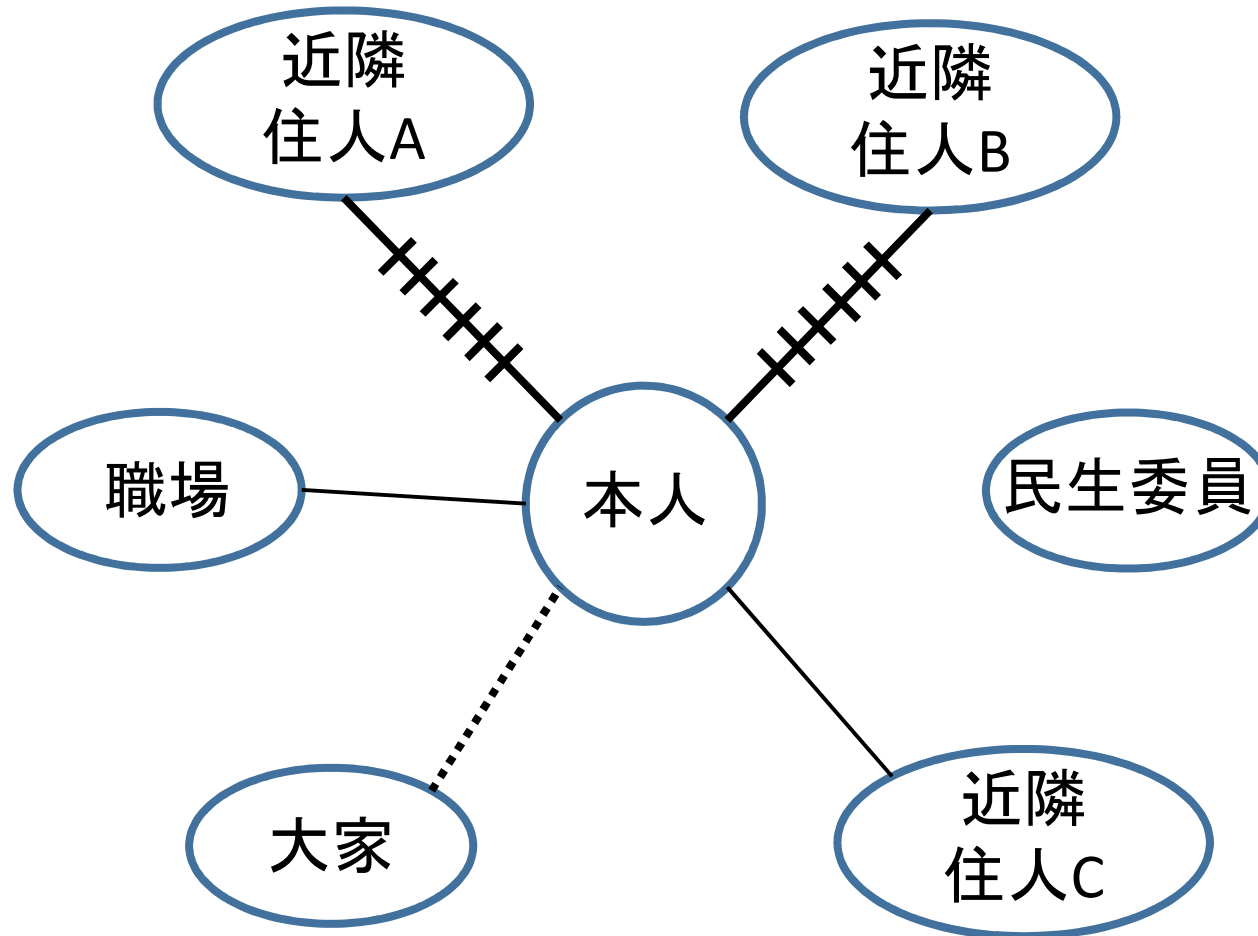
■個人ワーク エコマップ① 最初に訪問する前

現状のエコマップを下に作成してください。

■個人ワーク エコマップ② 会ってから現在

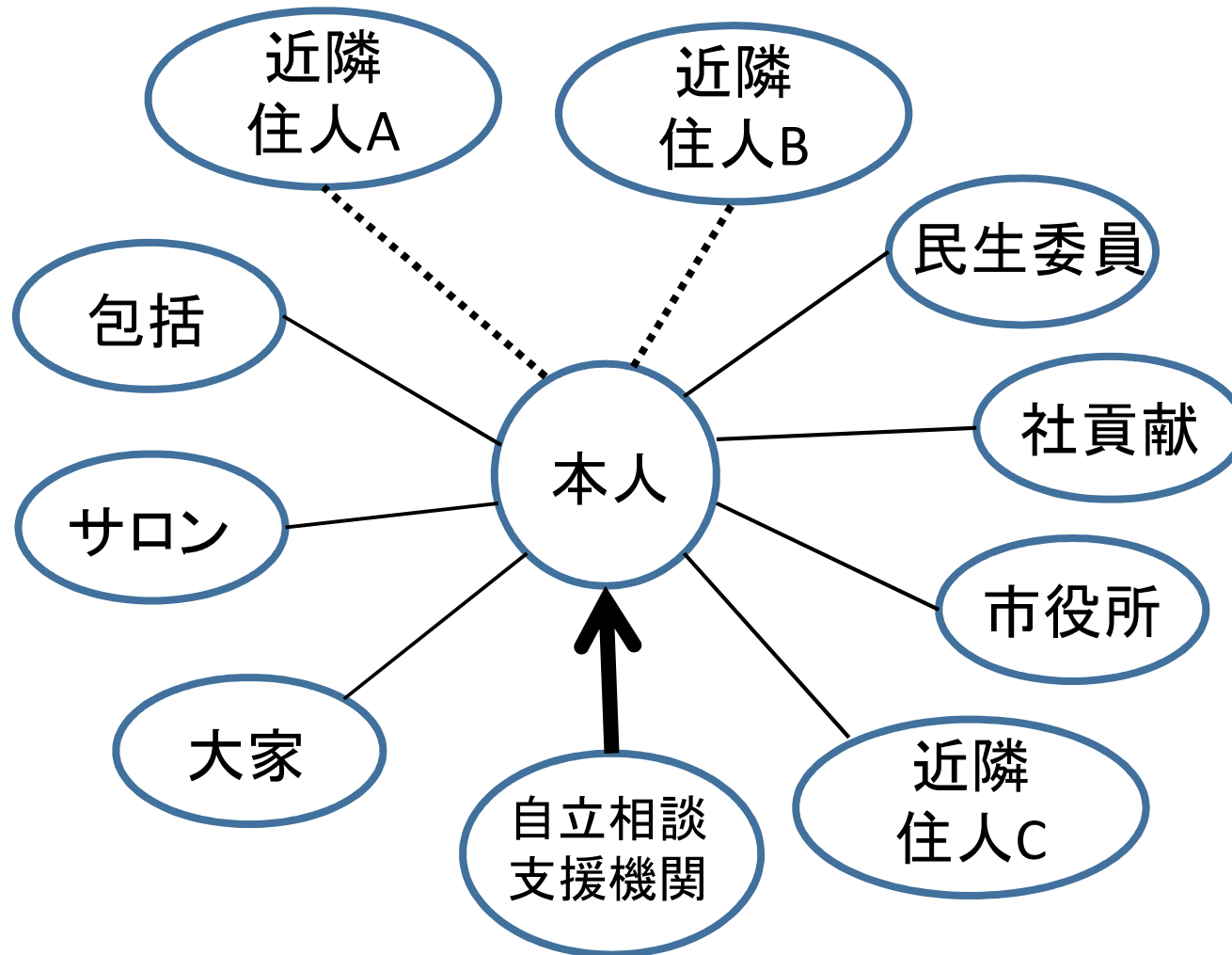
現状のエコマップを下に作成してください。

【講義と演習④】個を支える地域づくり（前半）



エコマップ① 最初に訪問する前

【講義と演習④】個を支える地域づくり（前半）



エコマップ② 会ってから現在

プロセスレポートシート

本人のニーズ・状況	主任相談支援員の働きかけ	地域・近隣住民
<p>訪問しても不在で連絡がとれない。</p> <p>↓（8ヶ月後）</p> <p>本人と出会う。「できればゴミを片付けたい」と話す。</p> <p>↓（1ヵ月後）</p> <p>・ゴミの片付けが始まる</p> <p>↓（1年後）</p> <p>・「生活が苦しい」と語り出す。</p> <p>・サロンに参加するようになる。 スーパーのフードコートで食事を振る舞う。</p>	<p>・住民からの苦情で訪問するが、会えない</p> <p>・月1回定期的に訪問。包括支援センターなどとも情報共有をする。</p> <p>・近隣の人から声をかけられるようになる。近隣の人たちの意見や困っている内容についても聞き取りをする。</p> <p>・近隣に対して本人の姿を見かけたら連絡してほしいと依頼</p> <p>・近隣に対して「本人と話し合いたいので協力してください」とお願いする</p> <p>↓本人と出会う</p> <p>・「片付けの時に来てください」と斜め前の住人に依頼</p> <p>・包括と行政へ働きかけ。片付け依頼。ゴミの片付け費用（たすけあい基金）調整。</p> <p>・支援員の働く姿。ゴミを片付ける姿。</p> <p>・「周りの人は優しくしてくれているね」と本人に印象付けるように伝える。→代弁機能。橋渡し役。→攻撃する人の思いにも配慮。</p> <p>↓（1年後）</p> <p>・生活保護申請に同行 「元気はないけど貯金はある」と話す。しかし近い将来、困窮状態になると思われる。</p> <p>・ゆるやかな見守り体制づくり。近隣やサロンへの働きかけ。</p> <p>・ゴミ屋敷と地域のニーズの両方に目を向ける。 →社会的孤立をさせない支援へ。</p>	<p>・住民からゴミを片付けてほしいとの依頼</p> <p>・向かいの住人A：困っている</p> <p>・隣の住人B：怒っている「行政がゴミを片付けるべき」</p> <p>・斜め前の住人C：協力的（唯一、会話あり。ボランティア活動をしている）</p> <p>・ゴミの片付けに協力するようになる</p> <p>・近隣の人たちも気にかけてくれるようになる。</p> <p>・見守りをしてくれるネットワークをつくる。</p> <p>・サロン活動</p>

【講義と演習④】 個を支える地域づくり（前半）

プロセスレポートシート

本人のニーズ・状況	主任相談支援員の働きかけ	地域・近隣住民

ケースメソッド

事例検討ではありません。

支援についての考え方や方法をみんなで持ち寄るワークショップです。

個別支援についての考え方と予防や新しい支援の仕組みなども考案してください。

A :

夫がいるが、家のことは全て妻に任せている。子どもは、中学生、小学生と保育園児。母親は精神障害手帳を持っている。母子ともに昼夜逆転した生活を送っている。小学生の子は不登校であり生活リズムも不規則。家事は中学生の子が主に行っている。家はゴミ屋敷状態に加えて猫もたくさん増えている。マンションの自治会からはゴミを何とかするように書類が来ている。

B :

75歳の母親と48歳の引きこもり（発達障害？）の長男の二世帯。

母親は要介護度が3。入浴や排せつもままならず、介護サービスの導入を進めるも、経済的理由からサービスをなかなか受け入れない。母親の一番の願いは息子の自立である。母親は遺族年金があり、家賃が8万円。生活費がなくなり、電気、ガス、水道が止まってしまう。

C :

両親と41歳の引きこもりの男性の三世帯。家庭内暴力、暴言等で母親は精神的にも困憊している。マンションは相談で管理組合から立ち退きを迫られている。小学校は行けたが、中学校から不登校になり、就職を目指したが九九が言えない、漢字が読めないため就職につながらなかった。今は家から一步も出ることができなくなっている。

ワークシート

取り組む事例に○を付けてください。 ケース A B C

【このケースの課題】

【支援の内容】

自立相談支援機関

行政

事業所・施設

社会福祉協議会

支援者（民生委員・福祉委員・ボランティア）

ご近所

その他

【こういうケースを支えていくための予防を含めた仕組みの提案】

ワークシート

取り組む事例に○を付けてください。 ケース A B C

【このケースの課題】

【支援の内容】

自立相談支援機関

行政

事業所・施設

社会福祉協議会

支援者（民生委員・福祉委員・ボランティア）

ご近所

その他

【こういうケースを支えていくための予防を含めた仕組みの提案】

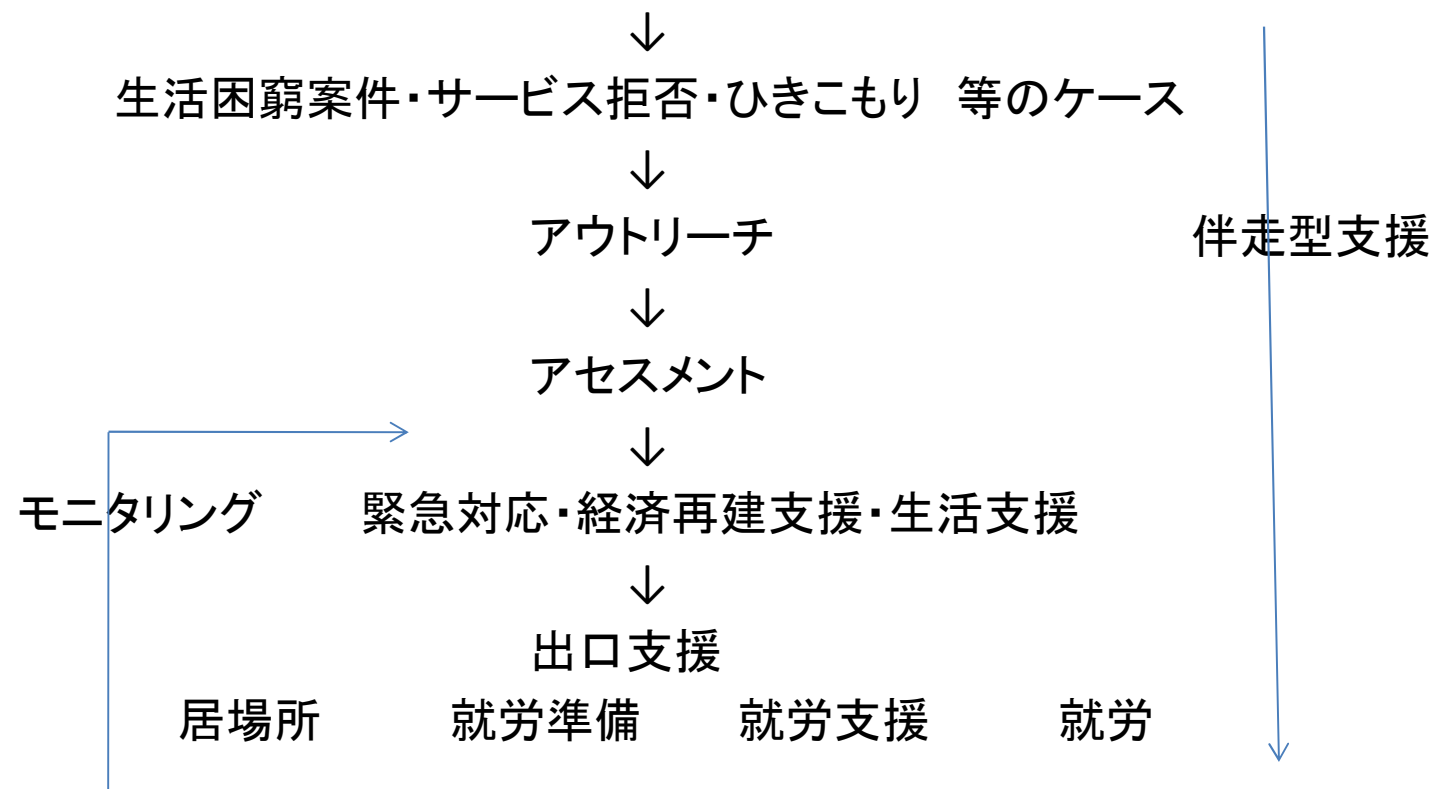
自立支援相談10の鍵

豊中市社会福祉協議会

勝部麗子

豊中の総合相談とアウトリーチ

地域住民・なんでも相談・事業所・大家、管理組合・貸付・学校・民生委員等



- 行政の窓口は公共料金の滞納世帯が把握

豊中の生活困窮者支援①

生活困窮者支援緊急支援

- 貸付、日常生活自立支援、なんでも相談などからの生活困窮者の伴走支援→CSWへ
(緊急対応、多重債務整理、年金手続き、住宅探し、制度利用、就労支援等)
- 善意銀行の生活困窮者貸付
- 物品提供(衣類、食糧)
- 老施協 社会貢献費用との連携

豊中の生活困窮者支援②

- CSWの相談の中で対応が難しかった就労まで距離のある若年の支援(ニート・ひきこもり・リストラ・ホームレス等)
→就労準備的な活動 *本人との目標設定(PSプラン)

居場所→就労プログラム→就労体験→就労

- ①居場所...週4回(生活面と自己肯定感、仲間意識)
- ②就労プログラム2時間一コマ 活動費支給
- ③就労体験...新聞配達、団地の草ひき、買物支援等
→職域開発地域のネットワーク発揮 活動費支給
- ④就労訓練...パートで一定期間仕事に就く(この間就活)
- ⑤就労支援...就労支援センター・ハローワークとの連携

ステップアップ

アウトリーチ	居場所参加	中間的就労	就労体験	就労準備	一般就労
家庭訪問 家族会参加	生活支援	500円/2H	新聞配達	就職活動 地域就労支 援センター	OB会

生活困窮者自立支援総合相談の 10の鍵

- 入口と出口づくり
入口 早期発見ネットワーク 解決力が発見力
出口 一般就労だけが出口ではない
ひとりひとりの役割がある
- 本人の自己肯定感を高める 徹底した本人尊重
- 翻訳機能 行政と本人 事業所と本人 地域と本人
- SOSを言える気づける地域づくり
知ることによって優しさが生まれる
- 開発力 ないものは作る セーフティネットを作る事業
緊急小口資金・フードバンク

- できる・できないのジャッジのワーカーではいけない
本人の生活から支援を組立てる
- 家族全体の見立てが大切
包括から見たら虐待？ 息子支援は？
保護か？就労支援？
- スモールステップを積み上げる 本人と目標を共有する
- 諦めない心 人生をあきらめかけている人を支える私たちが先に諦めてはいけない
- 援助関係づくり サービス拒否は支援者が拒否されてる
あなたを心配している。苦しい思いを受け止める
社会資源の活用は本人が主体化しないと始まらない